

提案主題	支援を要する子どもへの組織的な対応と教頭の役割について
サブテーマ	～組織全体で取り組む個別指導の在り方を探る～
協議の柱	支援を要する子どもへの組織的な対応とそこでの教頭の役割はどうあればよいか

提言者 大分市立中島小学校 野見山 準 五

1 質 疑

- (1) Q N児に対する小学校の組織的な対応が中学へどのように接続されているか。
A 保護者は小学校で個別指導のよさを実感し、中学校では特別支援学級に入級した。
小中合同の特別支援教育部会（各校のコーディネーター、中島小の特別支援学級担任で構成。指導助言として市教委や各校の教頭も参加。）で児童の共通理解と対応について協議してきた。特別支援学級入級の判定が受けられなかった場合の支援の仕方は課題である。
- (2) Q 支援を要する児童に対する中島小学校の取り組みは、荷揚町小や住吉小でも行っているのか。
A 他の学校では行っていないが、小学校3校で共通理解はできている。SSWやSCを含め三小（中島小・荷揚町小・住吉小）一中（碩田中）の児童の情報交換を行い、来年度の義務教育学校設立に向けて支援計画を作成している。

2 協 議

- (1) 支援学級や通常学級在籍の児童の支援に係り、養護教諭や保護者を含めた中学校との連携が必要である。取組をつないでいくことこそ大切。
- (2) SSWやSCと連携した対応が必要な場合もある。担任一人で抱え込まず、学年主任会等の中で児童の共通理解を図り、警察や児童相談所等の関係機関とつないでいくこともある。組織としての対応が重要であり、その中心となるのが教頭である。
- (3) 通常学級在籍児童を含め支援を必要とする児童の対応にあたり、前年度の記録をもとに児童の状況把握をし、特別支援コーディネーターを中心に組織で取り組んでいく。SSW等との連携に関しては、勤務時間との調整も必要になってくる。教頭には全体を見渡したコーディネーターが求められる。
- (4) 「組織としての対応」「指導の継続性」の中心となるのが教頭である。

3 指導助言

- (1) 教頭職には、外部機関とのコーディネートやすべてを見渡しまとめる仕事が求められる。その際の、教頭の誠実な姿・一生懸命な姿が組織を作っていく。
- (2) 教頭が積極的に児童の中に入り支援を行っている姿が他の教職員の範となっている。碩田学園の開校に向けて、企画委員会等を通じた小学校から中学校へのつながりをつくっていくことが教頭の仕事である。
- (3) 地域ぐるみで子どもを育てている中島小の取組が素晴らしい。来年度も継続して行うためには学校間だけでなく広がる校区をどうとりまとめていくかが課題となる。